

東京教区 礼拝音楽 NEWS

第1号

2020年7月12日

編集・発行／日本聖公会東京教区 礼拝音楽委員会
reihaiongaku.tko@nssk.org

先にお知らせしたとおり、2020年はベストリーツアー、聖歌集を歌う会をはじめとする恒例の集会・行事を見合わせることにしました。みなさんと語りあい、情報や思いを共有する小さな場になればと願い、ニュースを発行いたします。

「聖歌集を歌う会」余滴 セシリア 斉藤響子

古来、人の暮らしは音やリズムと共にありました。おそらく、言葉を持つずっと前から。動物的な本能によって、発する声の高さや、何かを叩くリズムで気持ちを表現したり、一緒に行動する時の一致感を高めたりしていたことでしょう。それから時がたち、人は言葉を得ました。創造主への賛美も、自らの感情も、言葉を通して紡ぐことを覚えたのです。

聖歌は、言葉と音楽によって本当に多くのことを伝えてくれます。礼拝や集会で共に歌って賛美するだけでなく、自らを慰め力づけることもできます。

礼拝音楽委員会では、これまで13回の「聖歌集を歌う会」（夏の聖歌キャンプ）を開催してきました。毎回、参加者に聖歌アンケートを取っています。

2011年、大震災の年には委員会としても悩みました。今この時に、一体どんな聖歌をともに歌えるのだろうか…と。その時のアンケートは「あなたが今歌いたい聖歌は？」でした。参加者・講師・スタッフ合わせて27名のところ、回答は『聖歌集』から49曲。1番から570番まで、様々な要素を含みバラエティに富んでいますが、私なりに分類してみました。

- 慰めの要素がある聖歌：30曲。
31番「日暮れて闇深まり」、
516番「み恵みあられ輝く」など
- 励ましの要素がある聖歌：21曲。
487番「重荷背負う人に」、521番「主よ
終わりまで仕えまつらん」など
- その他、派遣や導きを祈る聖歌：6曲
282番「罪に苦しむ」、
541番「空の鳥よ 野の花よ」など

注目は476番「暗闇行くときには」。震災を覚える礼拝などで幾度も用いられています。聖歌が、慰め励ます存在であることを強く感じさせる詩です。



▲2015年、夜の自由参加セッション

▼2018年、昼の聖餐式後に



次に多かった 487 番「重荷背負う人に」は、ともすれば力尽きてしまいそうな私たちに、そっと手を添えてくれるような聖歌です。また、531 番も挙げられていました。4 節をご紹介します。

「この世の病と 向き合うわれらの
歩みゆく日々に み手をのべたまえ」

言葉を与えられた私たちだからこそ、聖歌の歌詞に慰められ、力づけられます。弱った心にも、頑張っている心にも、今ものちも聖歌は寄り添ってくれています。

(礼拝音楽委員長)

| 第6回 聖歌集を歌う会(2011年8月) 「今 歌いたい聖歌」アンケート集計より | | | | | |
|---|------------------|-------|-----|--------------------|-------|
| 初行 | | 選んだ人数 | 初行 | | 選んだ人数 |
| 1 | 新しい朝よ目覚めよ | 2 | 468 | 愛のみ誓いの | 1 |
| 2 | 風に目を覚まして | 2 | 472 | ここに祈りの家がある | 1 |
| 2 | (第2譜)風に目を覚まして | 1 | 474 | 望み満つるわが主よ | 1 |
| 31 | 日暮れて闇深まり | 1 | 475 | 光の子どもらしく | 1 |
| 178 | 望み絶え果てたまどろみの地に | 1 | 476 | 暗闇行くときには | 5 |
| 251 | カルバリの木にかかり | 1 | 477 | 恐れにとらわれ | 2 |
| 260 | 主の食卓を囲み(マラナ・タ) | 1 | 483 | 神の国と神の義を | 1 |
| 262 | 「なが罪赦さる やすらに行け」と | 1 | 487 | 重荷背負う人に | 4 |
| 282 | 罪に苦しむ叫びを聞いた | 2 | 491 | あめなる喜び | 1 |
| 291 | やすかれ わが心よ | 1 | 500 | 主イエスの教えたまいしは | 1 |
| 303 | わが心は賛美に満ちる | 1 | 505 | 用いたまえ 神よ | 2 |
| 309 | たたえの調べを | 1 | 509 | あなたは岸辺で | 1 |
| 341 | 愛の聖霊よ われら用いて | 1 | 510 | 生まれいずるときは | 1 |
| 344 | 空の鳥は小さくても | 1 | 516 | み恵みあふれ輝く光よ | 1 |
| 358 | 神のみ子み栄えと | 2 | 517 | 主が来られたから | 2 |
| 364 | 貧しい人にキリストは呼びかける | 1 | 521 | 主よ終わりまで仕えまつらん | 2 |
| 385 | 聖霊よ はげしく吹く風のように | 1 | 522 | 神ともにいまして | 1 |
| 412 | 主を求めよ 生きよ神の民 | 1 | 526 | 見つめることから | 1 |
| 417 | あなたの平和の道具にしてください | 1 | 531 | いやし主イエスの | 1 |
| 418 | 誰もひとりだけでは | 2 | 540 | やさしき息吹の | 1 |
| 422 | 長崎の空は | 1 | 540 | やさしき息吹の(1、2節試用版歌詞) | 1 |
| 425 | 世界の希望キリスト | 2 | 541 | 空の鳥よ 野の花よ | 1 |
| 426 | 希望と祈りと夢描くとき | 1 | 555 | 時を超え 愛の力は | 1 |
| 442 | ともにあつまる | 1 | 570 | 主こそまことの救い | 1 |
| 444 | 山辺に向かいて | 1 | | | |

ご意見お待ちしております

reihaiougaku.tko@nssk.org

または郵便で 東京教区事務所内 礼拝音楽委員会へ

歌うことは「クラスター」源？

— 賛美の喜びと感染の危険と

私たちの毎日から「みんなで歌うこと」が突然消えました。賛美をささげることはキリスト者のつとめであると教えられ、また、礼拝に参加する方々が心からの賛美をささげられるよう奏樂で仕えることが使命だと思い定めてきたのですが、それが実は自身にとってどれほど生きる力を与えてくれるものであったか痛感しました。

苦し紛れに、英米の教会音楽関係者とコンタクトを取り、記事を読んだりすることに努めました。その中からいくつかをご紹介します、みなさまと一緒に考えたいと思っています。

(アグネス 中島郁代)

5月5日、全米の合唱指導者団体と舞台芸術医学協会による専門家会議が開催され、ショッキングな提言がなされました。舞台芸術医協のハルステッド博士によれば「新型コロナウイルスのワクチンあるいは特效薬が開発されるまでに少なくとも1年半か2年かかると思われるが、それまでは、集まって歌うことには非常な危険を伴う」。というのは、室内で一緒に歌うとき、

- 人との間隔をあけて安全を確保するには広大な会場が必要で、非現実的
- N95のような高性能マスクならウィルスを遮断することが可能だが、苦しくて歌えない
- 簡便なウィルス検査が広範囲に行えるようになり、会場入り口でスクリーニングを実施したとしても、擬陰性患者が混じっている危険性がある

それでも、合唱団員でもある耳鼻科医のヤング博士は、マスク着用とソーシャルディスタンスに留意しつつ、空気清浄フィルターや行動/接触追跡システム、自主隔離体制などの技術研究、開発がされることにより出口が見つかるのでは、と前向きな姿勢を見せました。

そこから1ヶ月後、6月9日付ニューヨークタイムズ紙に、集まって歌うことの現況についてレポートが掲載されました。ロンドン在住の記者が、

前出の米国舞台芸術医協ハルステッド博士のほか、ヨーロッパ各地の合唱関係者へ取材したものです。

5月にバイエルン放送合唱団、ミュンヘン大などが歌唱によるエアロゾル（微細な粒子をふくむ空気）に特化した実験を行った結果、マスクでは僅かながら拡散防止効果がみられるものの、フェイスシールドでは、エアロゾルは口元でぶつかり、そのまま横へ下へと飛散してしまい、効果なし、ということでした。その実験も受け、ドイツ国内での合唱、聖歌隊活動は地域ごとの判断により、参加者同士の距離を大きくとる方策で再開したところもあれば、礼拝など宗教活動であっても歌うことは認めないとしている地域もあるようです。

オランダでは一回のステージで100人が集団感染したこともあり、集まって歌うことは避けるよう勧告がなされました。一方でノルウェーは、10人以下での合唱、隣の人と1m程度離れる、という目安のもと、記事の時点で全国合唱協会のおよそ半数の団体が活動を再開していたそうです。マーシャル記者は、ハルステッド博士にもインタビューし、5月の専門家会議の後、さらなる発言を求めました。博士は音楽家や歌手の悲嘆と困惑に理解を示しながらも、大勢で集まって歌うことへの決定的な安全策は、ワクチンと特效薬が現れ

ないかぎり依然として「ない」という見解を示しました。しかしリスクを少しでも減らすという意味では、少人数、屋外、追い風ではない方向に空気が動いていること、が有効であると挙げています。

…と、ここまでの提言やレポートなどをみると、集まって歌えないことによる問題が顕在化しているのは主に「人に聴かせるための合唱団、聖歌隊」のステージやその練習であることがうかがえます。しかし、私たちにとってより喫緊の課題は礼拝での会衆賛美であり、事態はもっと深刻だといえます。

信徒であるないに関わらず、さまざまな人がともに歌うことに、会衆賛美の意義があると私は考えています。神さまはすべての人を招いておられると信じているのに「一定の在籍信徒のみ礼拝参加または歌って良い」とか「事前許可なしの賛美は不可」などと、どうして言えましょう。

また、心と声のかぎりに皆で主をほめたたえ歌うとき、その私たちの歌声の中にみ国を、イエスさまがいらっしゃるのを感じます。歌う時間を短縮し、ごく小さな声で歌うことで、感染リスクは減らせるかもしれませんが、そうした実感はどうなるでしょうか。もしかして違う努力をしなくてはいけないのでしょうか。歌いたい気分させないための上手な奏楽方法？ まさか！

IT 技術を活用することは、道のひとつでしょう。聖堂レイアウト、式次第を工夫することもできるかもしれません。とにかく、今この時代、教会音楽を愛する人がしなくてはならないのは（バッハやグレゴリオ聖歌、賛美歌史の勉強はもちろん大切ですけれど）集まれない、一緒に歌えない事態が起きてても、賛美を続けられる新たな道を探ることではないでしょうか。緊急事態だから礼拝で歌うことをやめる、解除された

から元にもどす、ではなく、平時にも、いざというときにも使える（かつ魅力的な）手だてを考えることが必要だと思うのです。皆さまからのご意見、アイデア、お聞かせください。

（礼拝音楽委員、オルガン奏者）

<引用した記事>

Zach Finkelstein (2020, May 6),

NATS panel of experts lays out sobering future for singers: No vaccine, no safe public singing, *The middle class artist*.

https://www.middleclassartist.com/post/nats-panel-of-experts-lays-out-sobering-future-for-singers-no-vaccine-no-safe-public-singing?fbclid=IwAR2SNQrxBj8TJoFp1LkGA68vABkvD1_JZpqElq-ME9T_CC5KdDAHU_HkIPO

(2020年6月29日 最終閲覧)

Alex Marshall (June 9, 2020),

When will it be safe to sing together again?, *The new york times*.

<https://www.nytimes.com/2020/06/09/arts/music/choirs-singing-coronavirus-safe.html>

(2020年6月29日 最終閲覧)

次号は

「聖歌キャンプ」をテーマに
聖歌集を歌う会の思い出、今後に向けて、
など

✉ご自宅へ『礼拝音楽NEWS』を

お送りします。ご希望のかたは、

・プリント版郵送 ・データ版のメール送付
いずれかを明記のうえ

reihaiongaku.tko@nssk.org

（礼拝音楽委員会）または

FAX 03-3433-8678（東京教区事務所）へ
お申し込みください